

取組み事例① B市 地域診断を活用したワークショップ

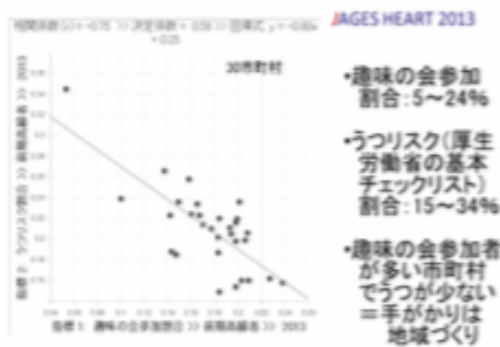
同じ地域で活動する異なる種類のボランティアが参加するワークショップで
地域診断結果や介護予防の課題を共有

サポートサイトから関連関係のある項目を抽出

該当者の少ない地域の特徴

- ① ボランティア活動に参加している
- ② スポーツ組織に参加している
- ③ 趣味の会に参加している
- ④ 老人クラブに参加している
- ⑤ 情緒的サポートの授受
- ⑥ 手段的サポートの授受

趣味の会参加とうつリスク割合



住民にできる活動内容を検討してもらった

認知機能低下者が少ない地域の特徴として趣味の会などへの社会参加が多いことを紹介

解説



- 地域診断の結果を、住民主体の地域活動に結びつけたB市の事例紹介。
- ・ 地域全体の健康を向上させる、いわゆる介護予防のポピュレーション戦略を進めるには、地域診断結果や地域課題の共有が有効。
- ・ この例では、認知機能低下者の割合が低い地域で趣味の会への社会参加が多いことなどを住民に紹介し、住民自身が活動内容を検討。

地域づくりによる介護予防進め方ガイド
(プロトコル・手順書)

P.31 2. 運営主体の形成期

取組み事例① B市 地域診断を活用したワークショップ

ワークショップによる情報共有の成果

- 介入する地域の優先課題と、その順位に市全体から納得を得た。
- 介入対象となる地域住民に、なぜその地域から行う必要が高いのかを説得できた。
- 住民主体の活動により、地元のキーパーソンを巻き込みながら事業が進められるようになった。

参考情報

- **ポピュレーション戦略** = (現時点で)元気な高齢者を対象として、(将来の)虚弱化を防ぐ一次予防。
 - ・ 健康増進を目指す介護予防のための方策。具体的には、高齢者サロン、体操教室など。
 - ・ 禁煙に例えれば、公共建築物の全面禁煙やたばこ増税、高血圧対策としては加工食品への塩分規制がこれにあたる。
- **ハイリスク戦略** = 従来、主に行われていた介護予防。
 - ・ 健康診断等で、要介護の危険因子を持つ人をスクリーニングして、特別な介入を行う方策。
 - ・ 禁煙に例えれば、喫煙者に対する禁煙指導、高血圧予防では、高血圧者に対する減塩指導がこれにあたる。
- 介護予防では、危険因子を持つ人を十分にスクリーニング（対象者を集めて集中対策）できなかったことから、ポピュレーション戦略の重要性が増している。